

---

---

<埼玉発世界行き奨学生レポート NO.1>

こんにちは。平成 23 年度埼玉発世界行き奨学生で昨年度ドイツのベルリン自由大学に留学しておりました小林誠です。初回となります今回は、僕のいたドイツのベルリンについて紹介させていただきます。

ベルリンは、ドイツにおける政治の中心都市で、国会議事堂や首相官邸など行政に関わる機関が集中しています。東西統合以降ドイツの中心都市として急成長をしているベルリンですが、壁が崩壊してから 20 年以上経つ現在でも、町を実際に歩くと旧東地区と旧西地区の違いを感じることが出来ます。

旧東地区の中心地、アレキサンダープラッツを歩くとシンプルかつモノトーンなビルが計画的に立ち並んでいて、旧東地区の名残を今でも感じることが出来ます。一方、旧西側地区には、動物園やショッピングセンターなどが古くから商業地区として形成されていて、パリのシャンゼリゼをイメージするような買い物通りが広がっています。このように、ベルリンはそれぞれの地区によって外観、文化、人々の様子などに違いを感じることができるのです。

今、ベルリンではタピオカドリンクブームが起きていて、街のいたるところにタピオカドリンクのお店が進出しています。台湾系のお店が多いので今後日本にも展開してくるかもしれません。

意外なことにこの町の名物は、ケバブです。ケバブと聞くとトルコ料理を想像しますが、実はケバブとはぐるぐると回って焼いているあの肉のかたまりのことを指し、肉をパンに挟んでサンドウィッチのようにして食べ始めたのはベルリン在住のトルコ人からなのです。ベルリンには、クロイツベルグと呼ばれる有名なトルコ人街があり、今でも独自の文化を育んでいます。世界一美味しいケバブを食べたい方はぜひベルリンへお越しください。

早稲田大学 4 年 小林 誠 (平成 23 年度埼玉発世界行き「協定留学コース」奨学生)

---

---